

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-83C	13-030	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
Alcohol and dietary folate intake and the risk of breast cancer: a case-control study in Japan. アルコールと食事からの葉酸摂取と乳がんのリスク：日本におけるケースコントロール研究		
執筆者		
Islam T, Ito H, Sueta A, Hosono S, Hirose K, Watanabe M, Iwata H, Tajima K, Tanaka H, Matsuo K.		
掲載誌		
Eur J Cancer Prev. 2013 Jul;22(4):358-66. doi: 10.1097/CEJ.0b013e32835b6a60.		
キーワード		PMID
アルコール、葉酸、乳がん、ケースコントロール研究		23183091
要 旨		
<p>目的： アルコールとの相互作用の観点から、葉酸は多くのタイプのがんにおける潜在的な因子であると示唆されてきた。アジア人における乳がんのリスクに対して、これらの因子が与える影響、特に受容体の状態に着目したものは、ほとんどない。この研究の目的は、飲酒と食事からの葉酸摂取が乳がんのリスクに与える影響について明らかにすることである。</p> <p>方法： 閉経前・閉経後の日本の女性におけるケースコントロール研究を実施した。1,754人の乳がんの患者と3,508人のがんを有していない協力者を対象とし、自己申告の飲酒状況、食事からの葉酸の摂取状況と乳がんとの関係を調査した。オッズ比及び95%信頼区間は潜在的交絡因子を調整したロジスティクス回帰モデルを用いて推定した。</p> <p>結果： 飲酒は、乳がんのリスクと関連し、23g/日以上の飲酒者は非飲酒者と比較すると、オッズ比は1.39倍(95%CI:1.07-1.80)であった。葉酸の摂取と乳がんの全リスクとは逆相関がみられた。葉酸の摂取量を3分位に分けると最も低い群と比較して、高い群ではオッズ比0.79(95%CI:0.79-0.93、p=0.004)倍であった。葉酸の摂取量が低い群では23g/日以上の飲酒者は非飲酒者と比較して有意なリスク上昇を認めた(オッズ比1.58、95%CI:1.06-2.33)。しかし、葉酸摂取量が第2・第3分位の群では、飲酒量の増加による有意なリスクの増加は認められなかった。</p> <p>結論： 日本人においても葉酸摂取が多い人は乳がんのリスクが低下した。一方アルコール摂取は乳がんのリスクを増加させた。これらのことからアルコール摂取に伴うがんのリスクの増加は葉酸を摂取することで、減少させ可能性が示唆される。乳がんにおける葉酸とアルコールが与える影響はがんの病型によって異なる可能性がある。</p>		